設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※　以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。　①:あてはまる　②:ややあてはまる　③:あまりあてはまらない　④:あてはまらない

設問 4　シラバスに沿って授業を行えた。

①:11（65%）　②:6（35%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 5　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:8（47%）　②:9（53%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 6　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:7（41%）　②:8（47%）　③:2（12%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 7　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:5（29%）　②:11（65%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:1（6%）

設問 8　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:5（29%）　②:10（59%）　③:2（12%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 9　受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:4（24%）　②:11（65%）　③:2（12%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 10　受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した　等）

①:4（24%）　②:12（71%）　③:1（6%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 11　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:6（35%）　②:8（47%）　③:3（18%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 12　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:2（12%）　②:3（76%）　③:2（12%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 13　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:7（41%）　②:10（59%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

B（問 14～18）：FD活動についてお尋ねします。

設問 14　この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　2（12%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　12（88%）

③他大学の FD 活動の視察：　3（18%）

④その他：　0（0%）

未回答：　2（12%）

設問 15　今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　6（35%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　16（94%）

③他大学の FD 活動の視察：　0（0%）

④その他：　0（0%）

未回答：　0（0%）

設問 16　昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、　　回答：9 クラス（順不同）

[1] 一昨年度・昨年度と定着の悪かった空間ベクトルの取り扱い（特に外積）については、回数を増やし、演習の機会を増やすことで、定着を図った。また、基礎教育としてのカリキュラム一新を考慮し、昨年度の題材の一部を、より専門に関わる題材に取り換えてみた。・・・2 クラス

[2] この講義は基本的にパワーポイントを使用した講義を行っており、使用したスライドは講義終了後にウェブ上で公開して自習に役立てるよう促していたが、全ての生徒が活用してくれていなかった。そこで予習時間を増やす事と、スライドを使用した自主学習を促す事を目的とし、実際に講義で使用するスライドから一部編集したファイルを事前に公開し、そのスライドを使用した予習を毎回課すようにした。・・・2 クラス

[3] 昨年度から、チーム基盤型学習(TBL)を授業に取り入れている。今年度も同様に実施したが、学生からは、問題を解く回数が多いので、試験に役に立つとの回答を得ている。

しかし、チームのメンバー構成の問題（良くできる学生ばかり集まっているチーム等）の不満もあった。

来年度で、3 回目の実施となるので、その結果を見て、継続あるいは改善を検討していきたい。″

[4] 前年度と同様に、月曜 1 コマめに物理科学の授業、4 コマ目に 30 分の補習と 30 分の予習授業を計 14 回実施し、参加者の延べ人数 157 名であり、学生の理解度不足を補うだけでなく、予習による学習意欲の増加を図った。また、２回目からの授業の開始時に、小テストを計 10 回行い、その際に、１週間の学習時間を調査して、学生に復習と予習をするように促した結果、２時間以上学習した学生の割合が、前年度（9 名）20%から、今年度（25 名）57%に増加した。

[5] 授業内容　各論部分の強化

試験の実施方法　資料持ち込みあり→なしへ″

[6] 受講生の人数は昨年までよりは大分少なかったので、授業中に練習問題を解かせているときに机間指導をしたり、練習問題を解答したものを提出させて添削したり、授業中に順に当てて考えを聞くなどした。叱ったり等はなるべくしないようにした。

[7] 「授業に見合った予習・復習や発展学習を課した」が 2.9 であったので，予習，復習の状況や疑問点を書いた「学習カード」を毎回提出させ，コメントと評点をつけて次回授業時に返却するようにした。

設問 17　自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：　14 クラス（順不同）

[1] 昨年度からアクティブラーニングを導入することで、授業の出席率や授業態度（居眠りや内職をしない）は明らかに改善が見られている。一方で、グループワークの導入により、ワーク時の能動性にグループ間の差が見られた結果、「出来る学生はより理解が進むが、出来無い学生にとっては単に学習量が減った」ように見受けられた。今年度はグループ同士を評価させることにより能動性の向上を図ったが、今後とも改善を試みたい。・・・2 クラス

[2] 毎回、簡単な復習課題を課し、採点・返却することで、受講生の理解度を見ながら授業レベルを調整したが、教員の処理能力を超えて課題を提出させたのは失敗であった：結果として、新しい題材については、授業資料作成が授業に間に合わず後日配布という悲惨な回もあった。学生・教員双方に実現可能な課題量を検討する必要がある。・・・2 クラス

[3] 講義科目に関する重要な疑問をまず学生と共有し，その疑問に答えることを最終的な目標に講義を進めることができた．この最終的な目標にたどり着く過程で，いくつかの重要な概念を説明したが，その概念に関する演習を徹底的には行っていないので，学生の習得度が十分ではなかった．この点は類似した複数の演習問題を与え，学生の印象に残す工夫をする必要がある．・・・2 クラス

[4] 学部改組に伴い授業計画を変更したことにより、複数の分野の内容を講義することとなった。このことから、

学生が若干の戸惑いを見せていた。次年度から高等学校のカリキュラムに変更に対応した学生が入学してくるため、授業項目を調整することにより解消される予定である。・・・2 クラス

[5] 講義はスライドと黒板の両方を用いた。これまで黒板のみで講義していたが，それでは学生が板書をすることに集中し，話を聞いておらず，講義中に内容を理解していないことが多いと感じていた。そこで，今回は講義ではまず私の話を学生に聞いて，内容を理解してもらうことに集中させるために，講義の直前に講義内容のスライドを配布し，そこに私が講義で話す内容や板書等色々な事柄を書き加えさせた。黒板は，重要な事柄をさらに詳細に教えるためや，講義中に解いてもらった演習問題の解説のために利用した。この講義手法は概ね良かったと感じている。

反省すべき点として，演習の時間があまり取れなかった点である。時間の都合上どうしても十分な問題演習の時間が取れない。この点の解決策は今後考えていかなければならないと感じている。″

[6] 9 年目になるが、高等学校にて物理を全く履修していない学生に対しての補習授業を実施している。前回は、TBL の都合上 7 回の補習授業を行ったが、今回は、未履修者が多かった 13 回の補習授業を行った点が、まず評価できる。

TBL は、チーム内でのコミュニケーションを取りながら問題を解く作業をしているので、良い面もあるが、学習意欲が低い学生が集まったチームの場合は、その効果はあまり期待できないと思われる。

何とか、チームでの作業をエンカレッジするような仕組みが必要であると感じた。″

[7] 前年度と同様に、ラーニングピラミッドで、teaching other の学習効果が 90%以上であることを学生に周知し、毎回の授業において、授業終了前 30 分の演習において、課題を早く解けた学生が、他の学生に教えることを促した結果、学生が互いに教えるようになり、学習意欲の向上につながったと考えられる。

[8] 本科目単位未履修で医学部の留年が決まる制度なので実質単位を落とせない。履修制度に少しバッファーを持たせてもらいたい。

[9] 学生とのやり取りが、少しはできたかなと思う。

[10] 受講生 22 人に対して 165 人部屋が割り当てられており，グループワークなどのアクティブラーニングを行う都合上，

少人数の部屋を希望したが通らなかった。やむなく，冷房のない本棟の実験室を使うことになり，終盤暑いとの不満があったようだ。

設問 18　FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：　なし

C（問 19～21）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19　授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：　7（41%）　②いいえ：10（59%）　未回答：　0（0%）

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20　下記のどの点を重視しましたか？**（複数回答可）**

①聞いて理解する：　3（18%）

②読んで理解する：　4（24%）

③自分の考えをまとめて話す：　3（18%）

④自分の考えを文章にまとめる：　0（0%）

⑤討論する：　0（0%）

⑥皆の前でプレゼンテーションする：0（0%）

⑦その他：　1（6%）　「他人に問題の解き方を教える」

未回答：　10（59%）

設問 21　「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：　5 クラス（順不同）

[1] グループワークにおいて「ワールドカフェ」を導入する事で、自分の班の考えを他班の人に説明したり、他班の説明を聞いた上で自班に持ち帰りメンバーに解説する、という事をやらせている。・・・2 クラス

[2] 設問 16 で述べたように、チーム基盤型学習を取り入れ、チーム内での問題解決を図るための工夫をしている。

[3] 理解することを目標にして、初歩から自然に考えを構築して行き易いように、段階に分けて、しかも分かり易いものから順に話をした。

[4] 講義の初回に計 44 ページのプリントを渡し、これを読んで理解の助けになるようにした。

D（問 22～25）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22　授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：　0（0%）　②いいえ：　17（100%）　未回答：　0（0%）

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23　その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①１～５回：　0（0%）　②６～10 回：　0（0%）　③11～15 回：　0（0%）

未解答：17（100%）

設問 24　「地域」のどのような分野を取り上げていますか？**（複数回答可）**

①歴史・文化：　0（0%）　②政治・経済・産業：　0（0%）　③自然環境・フィールド体験：　0（0%）

④その他：0（0%）　未回答:　17（100%）

設問 25　「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：　0 クラス